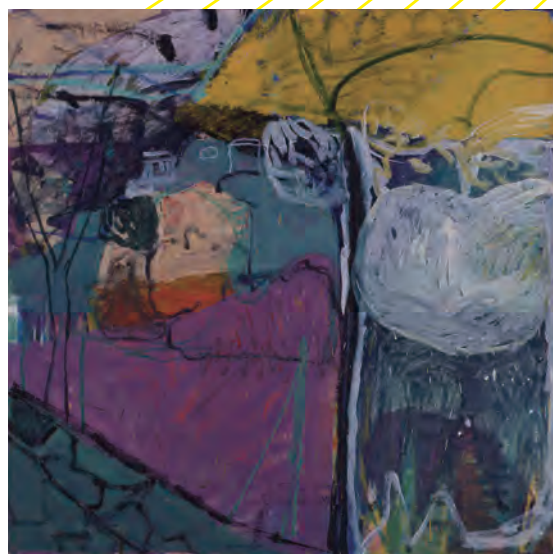


The Collection of the Takamatsu Art Museum + In Spilling Light with Chuta Kimura



木村忠太《モノハリス大通り》1966



木村忠太《ガラスの外》1975

Chuta Kimura
Leiko Ikemura
Takashi Ishida
Oscar Oiwa
O JUN
Shuji Okada
Shinji Ogawa
Yuri Ogawa
Mitsuo Kano
Tetsumi Kudo
Takanobu Kobayashi
Hiroshi Sugimoto
Asae Soya
Hisao Domoto
Manika Nagare
Rieko Hidaka
Naofumi Maruyama
Kentaro Yokouchi
Hidehiko Kuramoto
Aki kondo



木村忠太《真昼》1987

高松市美術館コレクション+ 木村忠太とこぼれる光のなかで

木村忠太 イケムラレイコ 石田尚志 大岩オスカー O JUN 岡田修二 小川信治
小川百合 加納光於 工藤哲巳 小林孝亘 杉本博司 曾谷朝絵 堂本尚郎
流麻二果 日高理恵子 丸山直文 横内賢太郎 藏本秀彦 近藤亜樹

2018.2.17 [sat] - 3.25 [sun]

開館時間 / 9:30~19:00 (但し日曜日は17:00閉館 / 初日2月17日(土)のみ展示室入室は10:15から / 入室は閉館30分前まで)

開展式 / 2月17日(土) 10:00~

休館日 / 月曜日

入場料 / 一般800円(640円)、大学生500円(400円)、高校生以下無料 ※()内は前売及び20名様以上の団体料金

※前売りチケットは、高松市美術館1階受付、高松市役所生協、ゆめタウン高松サービスカウンター、富福書店本店及び南本店にて2月16日(金)まで販売。

※身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は無料

主催 / 高松市美術館

協力 / 西村画廊、ShugoArts、香川県立高松工芸高等学校美術科

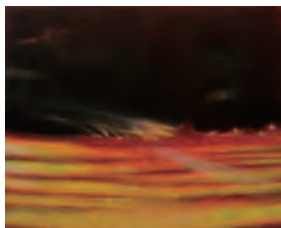
助成 / 公益財団法人 朝日新聞文化財団

高松市美術館コレクション^{プラス} 木村忠太とこぼれる光のなかで

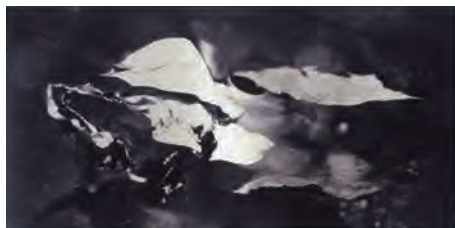
今から60年ほど前の1953(昭和28)年のこと。高松出身の画家木村忠太(1917-87)は、オランダ船で横浜を出港し、2ヶ月かけてマルセイユに到着するとパリに居を定めました。以来亡くなる1987(昭和62)年までフランスに留まり、光を探求し続け制作に打ちこみました。「光」への木村のこだわりは、抽象(アブストラクト)絵画の趨勢のなかであって、孤高な挑戦に映ったかもしれません。しかし、「内なる光」を生み出した木村忠太の一生は今もって、絵画や光に対する深遠なる問いを発し続けているとも言えます。

本展覧会で紹介する作家たちは、木村と同じくフランスに渡った堂本尚郎(1928-2013)や工藤哲巳(1935-90)、そして加納光於(1933-)以外は、みな戦後生まれです。日系2世としてサンパウロに生まれた大岩オスカールのほか、イケムラレイコ(ドイツ)、杉本博司(ニューヨーク)など、活動の拠点も様々であり、世代的にも木村と接点のある者はいません。しかし、ご覧いただく作品それぞれに、木村の言う「混迷を破るもの」として美術のあり方や可能性を感じることができます。水と光がゆらめく曾谷朝絵の絵画、石田尚志の差し込む光に委ねた絵画行為の痕跡など、現代を生きる作家たちの光をめぐる冒険があります。それらはまばゆい光というよりも、こぼれていくような有機的な光であり、揺らぐ映像のように私たちの身体感覚をゆるやかに満たしてくれるでしょう。

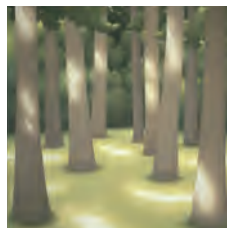
また、香川県在住の蔵本秀彦が描く、東日本大震災以降、テーマに掲げる「FUKUSHIMA」の新シリーズ《それでも木漏れ日は》や、同じく東日本大震災が制作のモチーフとなった近藤亜樹監督・脚本による映画《HIKARI》、そして展示室一面を覆う曾谷朝絵の映像インスタレーションなど、ゲスト作家による魅力的な展示が広がります。



1



2



3



4



5



6



7

1. イケムラレイコ《Pacific Red》2006
 2. 岡田修二《水辺33》2006
 3. 小林孝亘《Forest》2001
© Takanobu Kobayashi, Courtesy of Nishimura Gallery
 4. 石田尚志《3つの部屋・無音の部屋または暗くなる部屋》2010
© Takashi Ishida
 5. 蔵本秀彦《それでも木漏れ日は》2011-2017 作家蔵
 6. 近藤亜樹《HIKARI 3-2》(映画 HIKARI 原画) 2014 作家蔵
© Aki Kondo, Courtesy of ShugoArts
 7. 曾谷朝絵《宙-A-glow》2013 個人蔵 © Asae Soyas
- ※ 所蔵先記載のない作品は全て高松市美術館蔵

《関連イベント》 ※お問合せ・お申込みは高松市美術館(TEL: 087-823-1711)まで

○開展式

2月17日(土) 10:00~10:15 2階展示室前

○アーティスト・トーク

2月17日(土) 11:00~12:00(10:30開場) 出演: 曾谷朝絵、蔵本秀彦 / 1階講堂 / 先着80名 / 無料

ワークショップ

①曾谷朝絵ワークショップ「MIZUNOWA ミズノワから花開くヒトノワ」

2月17日(土) ①13:30~14:30 ②14:45~15:45 / 中2階ロビー / 500円(別途材料費500円程度)

対象: 未就学児~大人 ※未就学児は保護者同伴 / 先着各25名

内容: 制作途中で規格外の混色になってしまった色とりどりのEVAシートを活用し、ランチョンマットやピクニックシートを作ります。

要電話申込
/ 2月1日(木) 8:30~

②近藤亜樹ワークショップ「光の絵」

2月25日(日) 13:30~15:30 / 中2階ロビー / 500円

対象: 小学生10人、中学生~大人10人

内容: 東日本大震災による喪失体験から、作品「HIKARI」を制作した近藤亜樹さんを講師に、「光の絵」を描きます。制作した作品は中2階ロビーに展示します

要電話申込
/ 2月1日(木) 8:30~

③蔵本秀彦ワークショップ「木漏れ日の飛び出すカードを作ろう」

3月21日(水・祝) 13:00~16:00 / 3階講座室 / 500円(別途材料費300円)

対象: 小学生以上 / 20名 ※カッターを使用するので小学3年生以下は保護者同伴。

内容: コンテパステルの柔らかなタッチで描いた木の飛び出すカードを作ります。

要電話申込
/ 3月1日(木) 8:30~

○ミニコンサート

3月17日(土) 13:30~14:00 1階講堂 / 予約不要・無料 / 演奏: 加島華奈子(ピアノ)と近藤杏紗(フルート)

○友の会スペシャルイベント「蔵本秀彦トーク」

3月24日(土) 11:00~12:00

1階講堂 / 先着50名 / 無料

要電話申込 友の会会員 / 3月1日(木) 8:30~3月10日(土)
一般 / 3月11日(日) 8:30~

○ギャラリートーク(展示解説)

・学芸員 2月24日(土)、3月10日(土) 各14:00

・ボランティア 会期中の毎日曜日及び祝日の11:00、14:00の2回
2階展示室 / 要観覧券

○アートで遊ぼう! (子ども鑑賞プログラム)

3月3日(土) 9:30~11:00

3階講座室・2階展示室 / 無料

対象: 小学生 / 先着15人

内容: カメラを持って「こぼれる光」を探しに行こう。

要電話申込 / 受付中

○松尾由美(芸術士)による子どものアトリエ「色であそぼう!」

3月24日(土) 10:00~12:00

3階講座室 / 500円(別途材料費300円)

対象: 未就学児~小学生 / 20人

内容: ペインティングナイフを使って、2L判の油絵を描きます。

要電話申込 / 3月1日(木) 8:30~

《交通のご案内》

●JR四国: JR高松駅下車、南へ徒歩約15分 ●ことでん: 瓦町駅、片原町駅下車、徒歩約10分

●バス路線: (ショッピング・レインボー循環バス) 紺屋町バス停下車、徒歩約2分

(まちバス) 丸亀町参番街下車、徒歩約3分 (高速バス) 県庁通り下車、徒歩約8分

●駐車場: 美術館地下に公営駐車場(有料、乗用車144台収容)

高松市美術館 〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4 TEL: 087-823-1711 FAX: 087-851-7250

<https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/museum/takamatsu/>

○高松市美術館・高松市塩江美術館共通年間パスポート

パスポート3,000円(65歳以上1,500円) / 発行日から1年間何度でも楽しめる!

○高松市美術館サポートショップ

美術館周辺のサポートショップへ特別展の半券を持って行くと、お得な特典が受けられます。

※特別展会期中のみ

